

シリーズ「放課後子ども教室推進事業」 初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン掲載）

【第50回】

地域とふれあつてのびのびと育つ

山口県宇部市立小野小学校長 河村 克郎

山口県の南西部に位置する宇部市小野。自然に囲まれた小野湖の近くの「小野っ子の家」では、全校児童34名のうち、約10名が毎週水曜日の午後一緒に過ごしています。小野っ子の家は、小学校の正門を出るとすぐのところにあります。

放課後、集まった子どもたちは各自で宿題をすませます。そして、おやつを食べた後は自由時間。小野地域は校区が広く家に帰っても近くに遊ぶ子どもが少ないので、ここは友だちといっしょにのびのびと生活できる場所の一つです。

様子を見てみると、静かに本を読んでいる子、かくれんぼをして走り回っている子、段ボールで基地を作っている子、小学校の運動場へ遊びに行く子…さまざまです。学校とは違った子どもたちの熱気を感じます。

「子どもたちから元気もらっています。」と話されるスタッフの一人は、子どもたちの自主性を尊重し、聞かれた時に助言をするようにしているとのこと。年長の子が下の学年の子の世話をしている姿がよく見られ、お互いを認め合う場にもなっています。

子どもたちは好奇心旺盛で、見ること・聞くこと・体験することでいろいろなことを学んでいきます。スタッフの方々は土曜日・日曜日や長期休業中にも楽しい行事や体験教室を企画されており、近くの川の探検、天体観測、米作り、和紙づくり、スキー教室、地域の人とのグランドゴルフ大会等、本当に多彩なメニューです。

3学期の始業式の日放課後、いつもの小野っ子の家ではなく学校でかるた大会を開きました。元かるたクイーンの方をお招きして小学校の先生と一緒にかるたを楽しみ、大いに盛り上がりました。

地域の中でいろいろな体験をすることで、大勢の中での接し方や自分の表現の仕方を身につけ、小野っ子はのびのびと育っています。

（初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン）第162号に掲載）